

2019年度 個人研究実績・成果報告書

2020年3月15日

所属・職名	商経学部・准教授	氏名	沖塩 有希子
研究課題	オリンピックと日本の学校教育に関する研究		
研究キーワード	オリンピック・日本の学校教育・教育史	当年度計画に対する達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を達成したが、一部に遅れ等が発生した
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>本学経済研究所のプロジェクトとして採択された「オリンピック復興運動に関する社会文化的考察」（2018～19年）のメンバーの1人であり、同研究所が主催するシンポジウム：「オリンピックを考える ― オリンピズムの神話と現実 ―」で報告の必要があったので（2020年3月14日に開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止の関係で延期）、これに向けた準備を行ってきた。</p> <p>具体的には、オリンピックと日本の学校教育をめぐって、東京オリンピック（1940年のいわゆる「幻のオリンピック」・1964年・2020年の各オリンピック）の際に発行された教材を手がかりに、当時の時代背景にも留意しながら検討を進めてきた。</p> <p>（「2019年度個人研究実施計画書」では、研究課題を「イギリス近代女性教育史に関する研究」と設定し、オリンピック復興運動をめぐって、（筆者の専門分野である）イギリス近代女性教育史からのアプローチが可能であるかどうかその可能性を探るとしていたが、検討していく過程で大幅な研究課題の変更に至ったことを付記しておく。）</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載） 特になし</p> <p>3. 主な経費 上記の研究課題を進めるに際して、関連する資料の分析検討といった手続きが不可避であるので、その入手を主たる目的として経費を使わせていただいた。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等） 特になし。</p> <p style="text-align: right;">（本文は<u>1ページ以内</u>にまとめること）</p>			